

ここが問題！リニア新幹線

第113号 発行 2024年11月20日

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 linear-tokyokanagawa @googlegroups.com

リニア大深度工事、今度は町田市で地下水と気泡の漏出、道路のひび割れ発生！ 直ちにトンネル工事の中止を！

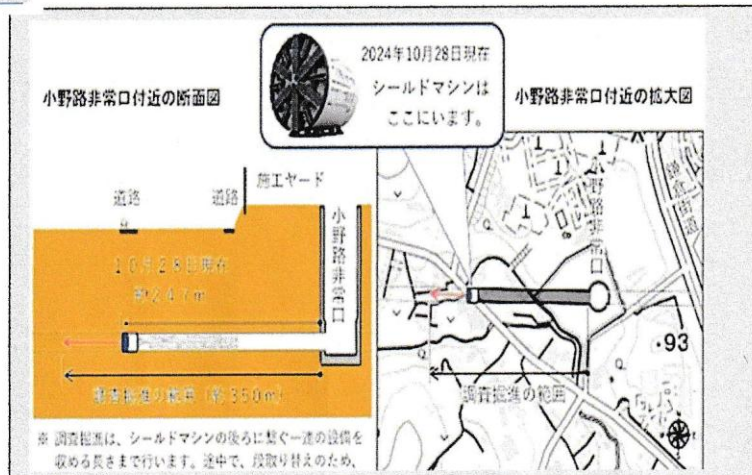


町田市の住宅敷地で発生する地下水と気泡（撮影＝榎田秀樹氏）

リニア第一首都圏トンネルの大深度トンネル工事は北品川川工区、町田市の小野路工区で調査掘進が行われ、川崎市の梶ヶ谷工区、東百合ヶ丘工区では調査掘進が終了し、現在住宅地の真下で本掘進が進められています。今年8月中旬に北品川工区の目黒川に気泡が発生し、原因はリニアの調査掘進工事であることがはっきりしています。

そして、今度は町田市小野路工区の調査掘進：しかかった10月22日朝、住民が自宅敷地内に

地下水と気泡が発生しているのを見つけ、リニア中央新幹線を考える町田の会に連絡し、町田の会はペットボトルに気泡の発生する空気と地下水を採取しました。また知らせを受けたフリージャーナリストの榎田秀樹氏も現場に急行し、動画と写真に発生状況を録画・撮影しました。JR東海は採取したの気体の分析結果として酸素濃度は大気中の濃度（21%）よりも低いものの人体には影響は無い、気泡材に含まれる界面活性度も水質基準に比べ著しく低かったとする資料を現場周辺の130世帯に配布しました。町田の会も採取資料の分析にかかっていますが、気体の酸素濃度は極めて低かったとしており、JR東海側の採取の仕方や分析方法が正しかったのかどうかも問われています。また気泡材が地表にも出てきたことが分かったことも確かで、気泡シールド工法の安全性が問われています。



町田の会の記者会見（11月8日）

町田の会が記者会見、JR東海は工事を中断

町田の会は11月8日市役所で記者会見を開き、地下水、気泡の発生状況を説明しました。また、JR東海に対し発生と掘削工事との関連を検証し住民に対する説明を求め、工事の中止を申し入れることを明らかにしました。会見には多くの新聞、テレビ各社が訪れニュースや記事で報道しました。

JR東海への申し入れは2～3ページに掲載

川崎市内のリニア大深度トンネル工事の即時中止を求める申し入れ書

2024年11月20日 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

1. 工事中止を求める理由

<目黒川や町田市の気泡、地下水の原因究明と再発防止の対策に全力を>

- ◆東海旅客鉄道（JR東海、以下貴社）は、今年5月27日、宮前区の梶ヶ谷非常口先、また9月24日から麻生区の東百合ヶ丘非常口先から片平非常口に向けてリニア新幹線の大深度トンネルの本掘進を開始しました。11月18日現在、シールドマシンはそれぞれの非常口から706m、247mまで進み、住宅地の下まで達しています。
 - ◆ところが、8月下旬に北品川工区の調査掘進中、シールドマシンの掘削真上に当たる目黒川の水面に気泡が発生しました。貴社は目黒川での事態について、気泡や地下水を採取し水質検査を行ったとしていますが、気泡の成分分析の検査結果は明らかにされていません。リニア大深度工事と気泡の発生の関連についても具体的な検証についても住民には何ら説明されていません。そして再発防止策を出さないまま調査掘進を進め、11月4日、北品川工区の調査掘進は270mで終了と発表し、近く説明会を開いた上本掘進を開始するとの方針を明らかにしました。
 - ◆更に、10月22日町田市小野路工区のリニア大深度トンネル工事（調査掘進）上にある住宅の敷地内で地下水と気泡が漏出する事態が起きました。突然の事態に住民が驚き不安になったことは明らかです。貴社も通報を受けて現場で気泡と地下水を採取しました。当時の斉藤鉄夫国土交通相は小野路工区の気泡と地下水の発生を重く見て、11月8日の記者会見で JR 東海に速やかな原因究明と地元住民への丁寧な説明を求め、調査結果を踏まえた適切な措置を取られるよう指導して行くと述べました。
 - ◆貴社は住民の許可をとって地下水と気泡を採取し、成分分析や酸素濃度の調査を行い、その結果の資料を現場周辺の130戸に配布したと聞いています。それによりますと、地下水はシールドマシンが放出する気泡材に含まれる陰イオン界面活性剤が1リットル当たり0.04ミリグラムで水道法に基づく0.2ミリグラムの水質基準を下回っていること、気泡の酸素濃度は地表30センチで18.8%、50センチで19.7%であり「酸欠空気」ではないとしています。しかし、空気の酸素濃度21%に近いことは明らかで、リニア中央新幹線を考える町田の会の分析結果「酸素濃度1%」とはかなりの乖離があります。
- また、現場近くでは道路に複数の亀裂が見つかったことも重大です。大深度工事が地表への影響をもたらした経緯も早急に究明し公表すべきです。

<リニア大深度工事の深刻な影響が相次いで発生するのに、リニア宣伝イベントで真実を隠そうとすることはやめよ>

- ◆貴社が上記のような深刻な事態を真摯に受け止め、今後の工事計画について根本的な改善策を考えているとは思えません。こうした深刻な事態の調査を徹底しないどころか、これを隠すような宣伝にお金をかけようとしています。10月12日から13日にかけて川崎港マリエン周辺で行われた第51回港まつりで貴社はリニアブースを開設し、家族向けや子供たちを対象に、超電導

技術の仕組みや今後の計画を宣伝しました。11月4日には品川駅のリニア駅の建設現場に一般の人たちを集め、工事開始から8年経っても工事が進まない現状を隠すような説明を行いました。さらに11月9日に相模原市橋本の神奈川新駅の工事現場で大規模なコンサートを実施しました。リニア工事には関係ないイベントに一体いくらのお金を無駄遣いしているのですか。

＜リニア大深度工事で住宅地に異常が発生したのは初、大きな影響が起きる可能性が高い＞

◆貴社は外環道の道路陥没事故を受けて、「試し掘り」である調査掘進と事前の家屋調査を行っています。家屋調査の対象は沿線全体で9千戸、川崎市市内で3千戸だそうです。対象者だけでなく、ルート両側40mから離れた住民も家屋調査を求めていることも貴社は知っています。こうした住民の皆さんの不安な声を貴社はどう受け止めているのでしょうか。梶ヶ谷工区や東百合ヶ丘工区で住宅地の下にトンネルを掘って行けば、外環道と同じような地表への影響が大きくなるのではないかと心配しているのです。外環道の場合、野川の水面の気泡発生事故がやがては地盤沈下、工事中止、40戸の転居、長期間の地盤強化工事につながりました。貴社もこの事実を知っているはずですよ。

外環道大深度トンネルの施工者は道路陥没現場が「特殊な地盤だったから陥没事故が起きた」と言い逃れし、貴社もその論理を踏襲して「東京や川崎のリニアルートには特殊地盤は無い」と説明しました。しかし、リニア工事の地質調査不足がはっきりしていることが町田市の地下水と気泡発生で明らかになりました。その事実を率直に認め、地質調査をやり直すべきではありませんか。大した問題ではないと決めつけてこのまま工事を急ぐと外環道と同じような深刻な事態につながります。

＜気泡シールド工事に原因があるのではないかと＞

◆リニア大深度工事は気泡シールド工法で行うと紹介されています。その工法により気泡や地下水の地上への漏洩が生じているのでしょうか。どのような添加材を使用しているのかは明らかではありませんが、気泡が泥質に影響を与え、新たな水脈や地上への通路を作っていることが考えられます。気泡の成分が人体や動植物に影響は無いのか、新たな通路で地表に排出される酸欠空気がルート上に漏れ住民の健康に影響しないのか心配です。

2. 以上の現状を踏まえ、貴社に対し以下を申し入れます

- ① 目黒川や町田市の気泡と地下水の発生についてどのように調べ、地表への影響をどう分析したのかを示してください。
- ② 町田市の道路亀裂について調査掘進との関連をどのような考えているのか示してください。
- ③ 添加剤を使った泥土圧シールド工法について改善する考えはないのか示してください。
- ④ 川崎市市内のリニアルートで地質調査をやり直す考えはないのか示してください。
- ⑤ 具体的な安全策を住民に示し納得されるまでは大深度トンネル工事を中止する考えはないのか示してください。
- ⑥ 国交省や自治体に対し、事態の解決や将来見通しについてどのような説明を行っているのかお示してください。

(以上、一部省略)

11月26日、川崎市にもリニア大深度トンネルに関する申し入れ

東京・神奈川連絡会は5月26日川崎市に対し、JR東海による市内のリニア大深度トンネルの詳しい情報を住民に知らせること、調査掘進におけるシールドマシンの掘削速度を毎分10ミリ以内に収めるよう市としてJR東海に確約させること、掘削中の地表への低周波の計測を行わせること、工事終了までの工事車両の走行計画を出させること、地表への影響や補償について想定や規定を持っていない大深度法の適用について、最終的には国交省が責任を果たすことなど9項目の申し入れを行いました。

これに対し、6月25日になって川崎市は福田市長名で、「リニア工事についてはJR東海のトンネル施工検討委員会において確認をされている」、「JR東海は、調査掘進での確認結果についての説明会や本格掘進に向けてのオープンハウス型の説明会を開催し、本格掘進についても工事の進捗状況を知らせている」としてJR東海の説明を鵜呑みにして、「本市としては引き続きトンネル工事における更なる安全対策の徹底と、地域住民に対する丁寧な説明を求めている」と答えています。このようなおざなりな川崎市の対応を誰が納得できるのでしょうか。

「JR東海は環境影響調査を行い、そして手続きを踏んで工事申請をして認可を受けた」、「引き続きJR東海に安全対策の徹底と住民に対する丁寧な説明を求めて行く」で事故は防げるとは言えません。静岡県は環境影響対策会議を設置し、独自に環境調査を行い、その結果を40項目に関する質問をJR東海にぶつけたのです。そうすることでJR東海は活断層の存在や工事による地下水位の300m低下などの事実を隠し切れなくなって明らかにしたのです。

川崎市のリニア大深度トンネル工事でも市民の住宅地の下にさしかかっています。

2020年10月の東京外環道工事による道路陥没と空洞の発生、今年10月のリニア大深度トンネル工事による東京・町田市における地下水・気泡の漏出や地面の亀裂発生は住宅地で起きています。川崎市は事故の再発や市民の不安を解消するためにJR東海に対しより厳しい対応を求めるよう、以下の点を川崎市長に申し入れます。

- 一、市内の工事の進捗が当初の予定よりどのくらい遅れているのか、またいつまでに完了するのかを具体的に明らかにするよう求めること。
- 二、市内のリニア関連工事の大幅な遅れについて、市は東扇島掘込部造成事業への影響をどのように考え、JR東海にどのような対策を求めているのか明らかにすべきだ。
- 三、事前の地質調査が極めて不足していたことを考えて、工事を一旦中止し、市内のルート上の地質を追加調査するよう求めること。
- 四、地中、地上で振動、騒音、低周波、地下水位、地盤の亀裂、陥没などの事態が発生した場合、規模の如何にかかわらず直ちに工事を中止するよう求めること。事態が深刻化する場合、市の環境影響審議会を設置すること。
- 五、住宅地の地下を巨大マシンで掘ることは危険であり、それによる事故も起きている。リニアの市内工事でいかなる事態が起きたら工事中止を求めるのか、市は明らかにすること。

ここが問題！リニア新幹線 NO.113

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一(中原・高津)090-3910-8173
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879
矢沢美也(麻生・多摩)090-6108-6568

リニア大深度トンネル工事住民相談会

12月15日(日)午後1時30分

麻生区のヨネツティー王禅寺で開催！

黙っていては被害は避けられない、多くの皆さんの参加をお願いします。

リニア東京・神奈川連絡会